

1943 年会津田島地震の被害に関する文献調査*

秋田大学 地方創生センター 水田 敏彦
 北海道大学 名誉教授 鏡味 洋史

1. はじめに

1943 年田島地震は福島県会津地方を襲った M=6.2 の内陸地震である。明治以降の会津地方での被害地震として知られ、日本被害地震総覧¹⁾ では「田島地震」と名称がつけられている。筆者等は、これまで秋田県の地震を中心に明治以降の被害地震の文献調査を進めており、隣県の岩手、山形の地震へと広げている(例えば^{2), 3)}。1943 年の田島地震は太平洋戦争中の地震であったが戦時の諸制約のなか福島測候所による調査報告書が残され、関連論文もある。小論では 1943 年田島地震の文献調査を行い被害の状況を明らかにする。

2. 1943 年田島地震の概要

本地震の緒元は日本被害地震総覧¹⁾ によれば、発震時 1943 年 8 月 12 日 13 時 50 分、福島県田島付近、経度 139° 52' E, 緯度 37° 20' N, M=6.2, h=26km である。人的被害は震央付近で負傷 3, その他、土蔵や住家の壁落ちや亀裂, 小規模な崖崩れがあったことが掲載されている。図 1 に示す震度分布図を福島測候所の報告⁴⁾ から引用している。

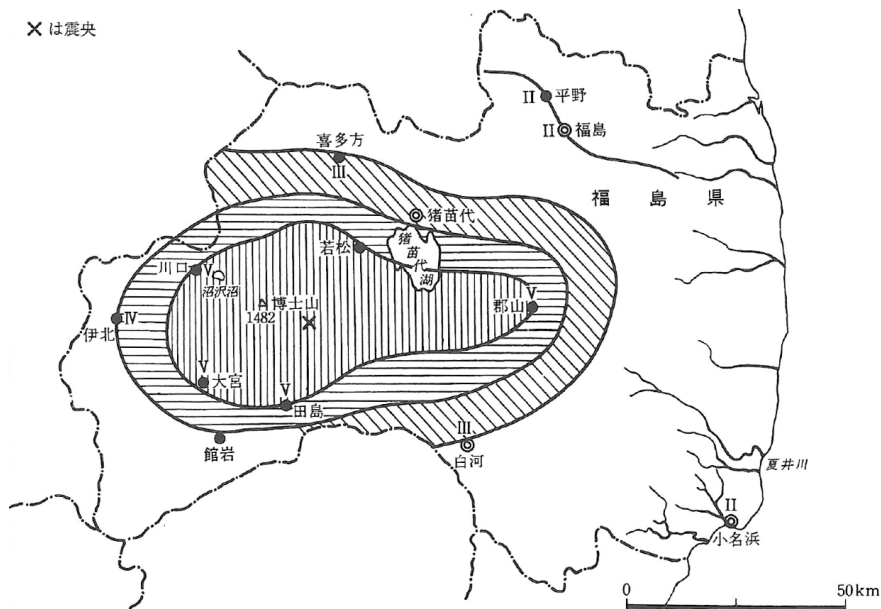


図 1 1943 年田島地震の震度分布 (日本被害地震総覧¹⁾ による。原図は福島測候所の報告⁴⁾)

* Literature survey on damage due to the 1943 Tajima earthquake, Aizu district of Fukushima prefecture by Toshihiko Mizuta and Hiroshi Kagami

3. 会津地方の概要

地震発生当時の地域の概要を述べておく。福島県は太平洋側から浜通り、中通り、会津の3地域に区分され、会津は西寄りの地域である。北会津郡（若松市）、南会津郡（田島町）、耶麻郡（喜多方町）、河沼郡（坂下町）、大沼郡（高田町）の5郡で構成され、括弧内に示す市町に郡役所が設置されていた。若松市は1899年市制施行により福島県で最初の市となっている。
測候所：福島県内の測候所は1889年の県立測候所の設立にさかのぼる。1923年会津出張所が猪苗代町に設置された。1953年若松市に移動し若松測候所となり、現在は無人化された観測所となっている。

旧制中学校：会津地方には1890年創立の会津中学校が若松市に、1818年創立の喜多方中学校が喜多方町に存在した。

鉄道：磐越西線（郡山－新津）は1914年に全通しており、現只見線は会津線として1926年に会津若松から会津坂下まで、1941年に会津宮下まで伸延していた。現会津鉄道会津線は国鉄会津線として1927年に西若松－上三寄が開通し、1934年会津田島まで伸延していた。また、喜多方から北へ熱塩まで伸びる国鉄日中線は1938年開通していたが、1984年に廃止された。

4. 会津地方の被害地震

会津地方の既往の被害地震を概観しておく。日本被害地震総覧から会津地方の地震をリストアップし表1に示す。明治以降の地震を見ると1936年にM=4.1、1987年にM=4.4の地震が発生しているが、いずれも被害は軽微であった。

表1 会津地方の被害地震

No	年月日	被災地	M	被害記載
—	1433.11.06	会津	6.7	会津塔寺八幡宮の廻廊・拜殿・宝殿・鳥居など、残らず倒れる
—	1555.09.14	会津	—	滝谷村の堂岩崩れ、聖徳太子の堂、別当松原坊の庵、民家を破壊し、松原坊の子1人生き残る。この日大風雨あり、地震によるものか不明
085	1611.09.27	会津	6.9	岩代国西部、若松城下およびその付近で被害大、若松城の石垣悉く崩れ、殿守破損、大寺（磐梯村）・柳津・塔寺・新宮・妙法寺（野沢町）・法用寺（赤沢村）等の神社仏寺の堂塔倒潰・大破多く、民家も多く潰れまたは大破し（2万余戸）、死3,700余、会津川下流で山崩れ川をふさぎ、水を湛うること3日3晩、山崎湖となった（この湖は寛永の末に消失、只見川、その他も山崩れにより堰とめられ各地に沼をつくった。それは北は熱塩・加納から南は大芦・檜原に至る60kmに及んだ。翌慶長17年春には柳津で地震・山崩れがあった。
113	1659.04.21	岩代・下野	6% ～ 7.0	猪苗代御城石垣2ヶ所崩る。城下町郷とも破損なく、南山田嶋町で人家297（一説197）軒、土蔵30（一説39）棟押し倒れ、死8、傷79、怪我馬5、南山街道山王峠崩る。塩原温泉一村（約80余戸）ほとんど土砂に埋まり、死多く、わずかに梶原の湯のみを残すという。
231	1821.12.13	岩代	5.5 ～ 6.0	大沼郡大石組の狭い範囲に強震、130軒壊れ、大小破300余、死者千、上下動が強く、山崩れあり。その後余震が翌年正月26日ごろまで続いた。翌文政5年1月4日再び地震、前年のものより強く、大石組の村々（人口約3,600～3,700）の住民全員強制的に移住させられる。日光・高田で有感
482	1936.09.02	若松市付近	4.1	1日から10日ごろまで若松を中心に頻発。市内で井水が3-4尺（0.9-1.2m）減ったところあり。神指村黒川で土蔵壁の亀裂や剥落等があった。2日の地震が最大。
502	1943.08.12	田島地震	6.2	震央付近で傷3（8）、土蔵や住家の壁落ちや亀裂などがあつた。その他小規模な崖崩れがあつた。
665	1987.06.16	会津若松附近	4.4	この地震以後微小地震が続発した。会津若松市の東部から猪苗代町の西部にかけてガラスのひび割れ、坐りの悪いものの倒伏など、ごく軽微な被害があつた。

5. 被害を記載した資料

1943年田島地震に関する調査報告・論文、新聞に被害が記載されているものを以下に示す。

被害調査報告：1943年に福島測候所が調査結果を「昭和18年8月12日福島県会津地方の強震概報」⁴⁾と題し報告している。中央气象台発表による各地の震度と区内観測所の報告に基づく等震度図が掲げられ、被害地震総覧¹⁾に掲載の震度分布図の基になっている。また、福島県警防課による被害調査結果『被害が最も多かったのは大沼郡尾岐村で高田警察署管内重傷1、軽傷2、馬負傷1、土蔵亀裂760棟、土蔵剥落193件、住家墜壁落5戸、道路陥没県道8里』等掲載されている。家屋や個別建物の破損、落石・土砂崩れ、墓石の転倒状況なども記されている。

学術論文：地震学会発行の地震に1943年小林が「会津地方の地質構造と地震との関係」⁵⁾と題し調査報告している。1943年田島地震については『会津若松附近に音響を伴った上下動の可成り強い地震が起り、時計が止まり、壁に亀裂が生ずる位の強震であった』とし、会津地方の地質・地殻変動について述べている。また、福島県立会津中学生徒数百人の協力により震域震度(被害概要)が調査され、町村毎の被害一覧が掲げられている。

新聞：福島県の代表的な新聞に「福島民報」があり、福島県立図書館で閲覧コピーし資料とした。また、全国紙である朝日新聞の東京版と福島版について、朝日新聞記事データベース聞蔵Ⅱを使用し紙面を収集資料とした。記事は地震発生翌日から表れ、内容は次章で述べる。

6. 新聞記事

太平洋戦争中に発生した地震で新聞記事は非常に少なく、被害に関する記事は地元紙福島民報の8月14日付け紙面のみである。福島測候所の報告⁴⁾には亀山福島県知事が防空演習視察中に地震に遭遇したことが記されている。一方、新聞記事に知事視察の件は報道されているが、地震のことは全く触れられていない。地震に関連する記事を以下に示す。○印は見出し、『』は記事の引用を、《》は記事の説明を示す。

福島民報

【8月12日】夕刊1面：○亀山知事会津巡視へ『亀山知事は会津方面初巡視のため11日午前6時15分福島駅発上り列車で出発、同10時6分若松駅着、自動車で河沼郡坂下町に赴き同35分から坂下警察署、農事試験場会津分場、会津農林学校、両沼地方事務所を視察、午後1時45分耶麻郡喜多方町に至り田付川改修工事、喜多方土木監督所同職業指導所、喜多方高女、耶麻地方事務所、喜多方警察署、喜多方中学校を視察同夜熱塩村笹谷旅館に宿泊した、12日は若松市及び大沼郡高田、本郷町、南会津内を視察して同夜帰庁の筈』《亀山知事：亀山孝一、1943年7月～1944年4月、就任から1月後の地震であった》

【8月13日】3面：○昨日の地震『12日午後1時50分本県一帯に相当の地震があつた、震源地は本県と栃木県境の那須山付近で若松地方では物が落ちた』

【8月14日】3面：○地震の被害『12日午後1時50分頃の地震で大沼郡尾岐村を中心に被害あり高田署で調査中であつたが県警防課の報告によると重傷1名、軽傷2名、馬1頭負傷、土蔵壁亀裂、脱落867棟、住家壁落5戸その他煙突倒壊、陶器破損等合計損害37,500円余に達した』

朝日新聞（東京版）

【8月13日】3面：○昨日の地震（中央气象台12日14時30分発表）『12日午後1時51分ごろ、関東地方の大部分から中部地方の東部及び東北地方の南部にわたり軽微な地震を感じた、震源は福島県南会津郡田島町附近で何処も大したことはなかった、各地の震度は次の通りである（中震）会津（弱震）白河、筑波山、相川（軽震）前橋、小名浜、高田、飯田、福島、水戸、新潟、軽井沢、酒田、柿岡（微震）宇都宮、熊谷、長野、秩父、東京、横浜、浜松、輪島、山形』朝日新聞（福島版）

【8月13日】4面：○亀山知事視察きのふ若松へ『会津地方に初巡視の亀山知事は11日午後耶摩地方事務所に到着、喜多方町各官衙、学校など一巡の後小浜県議、風間町村会長、安田地方事務所長、稲村警察署長らの案内で喜多方地方の稲作状況、田付川改修工事やいま勤労報国隊の力強い奉仕に作業を進めてみる関柴村地内喜多方町外1町6ヶ村農業水利事業の貯水池工事場を視察、さらに小浜県議、遠藤熱塩村長両氏が決戦下食糧増産に開田計画中の熱塩村地内赤崎林を夕闇迫るまで熱心に視察、ホーこれは素敵だ、ここを開拓すれば米はいくらでも取れるよう、一日も早く事業に取りかかってもらひたい、と大乘気、同夜は熱塩温泉に一泊12日若松方面に向つた』

【8月17日】4面：○物不足は工夫が足らぬ亀山知事さん南会視察の弁『足らぬたらぬは工夫が足らぬ一考へれば本県など物があり過ぎて困るくらみじやないかと思ふね一歩けば必ず人が気付かないやうな物を見付けて来る亀山知事は4日間にわたる会津地方の初巡視から帰庁して16日長官室で会津の土産話をした 会津地方は煙草の栽培が多い煙草栽培は県下を通じて大分あるがああ茎を利用して蚊取り線香の代用品をつくれなかつたかと考へ、この研究を田島の農林学校長に頼んできたまた熱塩、大塩の附近は昔塩をとったところだと聞いてゐる温泉も塩類泉として知られてゐるくらみで、塩不足の折柄これが利用を考へたい、また会津は柿の名産地だからああ柿の皮を乾燥して粉末とし、ゼリーの材料にするといふやうな方法もあると思ふ、単に漬物に利用するだけでは勿体ない、会津漆器の制作に伴ふ漆の県内確保や、蠟燭の生産なども今から対策を考へて置くやう地方の人々の奮起をお願いして来た、考へれば色々物はあるものだね』《地震の話は一切ない》

7. 被害とその分布

福島測候所調査報告⁴⁾と小林の論文⁵⁾から被害に関する項目を旧市町村別に整理し表2に示す。宇佐美の「歴史地震のための震度表」⁶⁾を参考に震度を推定し、右側の震度欄に示した。道路や地盤の亀裂、石垣破損のある場合を震度5+、住家・土蔵が破損し、壁の剥落のある場合を震度5、振り時計の停止が半数以上ある場合を震度4、その他は周辺地域の状況を考慮し震度3と置換えている。また、表2により被害の分布を当時の鉄道とともに示すと図2のようになる。図中には日本被害地震総覧¹⁾に掲載の震度分布図による震度V（実線）と震度IV（破線）の区域も示した。なお、大沼郡と南会津郡の町村は境界を点線で示し、表2に記載されていない町村名は（ ）内に示した。被害は大沼郡尾岐村と南会津郡江川村で大きく、被害が発生した市町村は震央から30km程度の大沼、南会津、北会津郡の市町村に集中している。震度Vのコンターは郡山Vを含めるため東に延びているが、郡山と中間の安積郡と岩瀬郡を含めて被害に関する記載は全くなく、南北会津郡にとどまっていたと考えられる。

表2 1943年田島地震の市町村別被害一覧

郡	旧町村名	福島測候所報告 ⁴⁾	小林の論文 ⁵⁾	時計停止	現町村名	震度	
耶麻郡	大塩村		戸外で有感	なし	北塩原村	3	
	檜原村		湖面に小波, 戸外で有感			3	
	猪苗代町		可なり強く	稀に	猪苗代町	3	
	長瀬村			なし		3	
	磐梯村			一部	磐梯町	3	
	塩川町			一部	塩川町	3	
	駒形村			一部		3	
	喜多方町		戸外で有感	なし	喜多方市	3	
	一ノ木村		強く	なし		3	
	飯豊山頂		可成強く				
木幡村		強く	なし	3			
山都村			一部	3			
新郷村			停止	4			
河沼郡	堂島村			50%以上		4	
	及川村			50%以上		4	
	柳津村			停止	柳津村	4	
	坂下町	農林学校牛転倒		50%以上	坂下町	4	
	金上村			50%以上		4	
	川西村			停止		4	
	八幡村			停止		4	
	群岡村			停止	耶麻郡西会津町	4	
	北会津郡	若松市		土蔵壁落, 水槽水溢, 中学校玄関コンクリート落下, 標本棚倒	70%以上	会津若松市	5
		一蕨村		器水溢	停止		5
神指村			壁落	停止	5		
門田村			壁落	大部分	5		
川南村				停止	4		
大戸村			物体倒		5		
大沼郡	高田町	壁落石灯籠倒れ僅か	地亀裂, 井戸水濁		会津美里町	5	
	赤沢村		棚から落下	停止		5	
	永井野村		壁落, 物体倒	停止		5	
	尾岐村	道路破損, 崖崩れ	石垣崩, 石碑倒			5+	
	松倉	一帯製炭窯全部崩壊					
	旭村		壁亀裂, 瓦屋根落下	停止		5	
	藤川村		壁落下	50%以上		5	
	本郷町		岩崎山の岩落下			5	
	新鶴村		壁落	一部		5	
	宮下村		石碑 50%倒			三島町	5
	沼沢村	沼沢湖畔崖崩れ 太郎布附近墓石倒伏				金山町	5
	水沼		只見川水濁				
	川口村		壁落, 障子戸倒, 石碑 30%倒				
南会津郡	江川村	製炭窯崩壊, 井戸変色	道路地割通行不可, 岩塊落下, 石垣崩		下郷町	5+	
	旭田村	製炭窯崩壊, 井戸変色	壁亀裂, 岩落下			5	
	檜原村	製炭窯崩壊	石碑 50%倒			5	
	田島町	国民学校校長宅壁落下		50%以上	南会津町	5	
	桧沢村			なし		3	
	大宮村			なし		3	
	荒海村			なし		3	
	舘岩村		感ずるも変化なし			3	
	伊南村	製炭窯崩壊				5	
	大川村	製炭窯崩壊	物体倒			5	

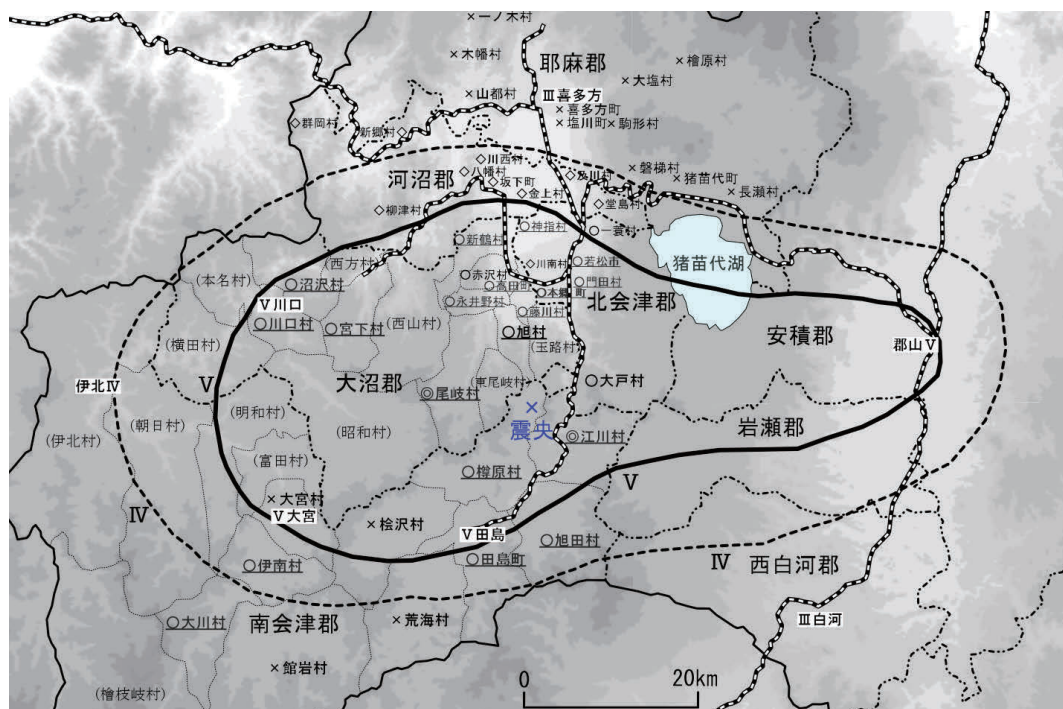


図2 被害のまとめ（アダクラインは被害が記載されている市町村 ※震度 [◎5+ ○5 ◇4 ×3]）

8. まとめ

1943年会津田島地震について、当時の被害調査報告、新聞を収集し記載されている被害を整理した。明らかにされた主な項目は以下の通りである。

- 1) 太平洋戦争中の諸制約のなか福島測候所による調査報告書、関連論文が残されている。
- 2) 福島測候所の報告⁴⁾には、県警防課報告の被害統計や各地の被害状況が記載されている。震央から30 km程度の範囲内で住家・土蔵の壁の亀裂や落下、製炭窯の崩壊、山崩れ・落石などの被害が各所で発生している。大沼郡高田町では知事が防空演習視察中に地震に遭遇したことが記されている。
- 3) 小林の論文⁵⁾には、会津中学校生徒の協力による町村ごとの地震の様子一覧が示されている。各町村の被害に加え、時計の状況や器物の様子など震域に関する報告が掲載されている。
- 4) 新聞記事には、太平洋戦争中であり被害状況が殆ど記載されてなかった。被害に関する記事は福島民報の8月14日付け紙面のみである。また、新聞記事に知事視察の件は報道されているが、地震のことは全く触れられていない。

今後は文献調査の範囲を広げ進めていきたい。また、太平洋側は2011東北地方太平洋沖地震の被災地となり、繰り返し海溝型の地震が発生している。今後の課題にしたい。

【参考文献】1) 宇佐美龍夫・石井寿・今村隆正・武村雅之・松浦律子：日本被害地震総覧，東京大学出版会，pp.332-333，2013. 2) 水田敏彦・鏡味洋史：1896. 8. 31 陸羽地震の岩手県における被害に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，14，28，pp.665-668，2008. 3) 水田敏彦・鏡味洋史：1894. 10. 22 庄内地震の大字別の被害分布に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，19，43，pp.1235-1238，2013. 4) 福島測候所：昭和18年8月12日福島県会津地方の強震概報，験震時報，13-2，pp.479-480，1943. 5) 小林学：会津地方の地質構造と地震との関係，地震 第1輯，15-12，pp.312-330，1943. 6) 宇佐美龍夫：歴史地震事始，巻末付表第4表，1986.